

グループホーム ほなみ

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		前回の評価結果を見直し、地域密着型サービスの役割を理念に反映し、「地域に根ざして、安心安全な生活、元気で楽しい生活、家族と同様」を掲げ、職員をはじめ地域の方たちにもわかりやすい理念をつくりあげている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念の共有化を図る為に、管理者、職員が話し合いの時間をもち、毎日の生活の中で実践できるよう管理者・職員・入居者と共に唱和し努力している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		理念は家族もよく見える所に掲示し、面会にこられたり行事に参加された時に施設の理念の意味を理解していただける様取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		朝・夕の散歩時に気軽に挨拶をかわせるご近所付き合いを実践している。また、畑の手入れをしている時などに「今度は何を植えるの」と声をかけて頂ける日常的な関わりを持つことができています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		町内会への加入に加え、地域リサイクル活動や敬老会への参加、老人会の慰問や婦人会の皆さんの見学などの受け入れを行っている。又、私達ができる地域への貢献活動として散歩時のゴミ・空き缶拾いなど定期的に取り組んでいる。

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所の運営者が看護師なので、町内会で行っている健康相談などの派遣相談や認知症についての講和研修などの依頼があれば進んで受けさせて頂く旨、公民館長に申し入れをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を真摯に受け止め、地域密着型サービスの役割を再確認し、改善にむけた取り組みなどをミーティングや運営推進会議などでとりあげ話し合いを実施している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の割合で第3水曜日と定めて行っている。利用者やサービス等の状況、施設内での取り組みなどについて意見を出し合いサービスの向上に努めている。又、防火訓練の地域住民の方々の参加、犬の糞の後始末、畑のものを取っていかれる等のお願ひ事も行っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、飯塚市より介護相談員の受け入れを行っている。利用者のかかえる不満や要望などがあれば、匿名にて聞かせて頂きサービスの向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度については、嘉飯桂地区や飯塚市が主催する研修に必ず参加し、施設内においても伝達講習を行っている。又、裁判所などにも伺い成年後見人制度についての費用や書類等についての説明なども受けている。なお、現在、利用されている方はいない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	飯塚市や福岡県が行う研修などに参加し、高齢者虐待防止関連法の学ぶ機会を設けている。又、身体拘束や虐待などが施設内にて見過ごされることがないように、毎日の申し送りなどで確認しあっている。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設側より契約の解約の申し出を行った事はないが、契約に際しては前もって契約書、重要事項説明書を渡して、よく内容を理解していただいている。又、入居時に契約書に記入される際には再度、十分に説明を行いわからない点などについては時間をかけて説明を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者と職員が何でも話せる様な関係作りに取り組んでいる。又、月に1度介護相談員の受け入れを実施し、利用者の不満や要望は匿名にて聞かせて頂き、施設運営に反映している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が訪問された際に、利用者の日常生活の状態は報告している。金銭面については病気の為、「貸して返してもらってないや盗られた」などのトラブルが発生したので施設が立替、月末に明細を添えて家族へ請求している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設内に苦情ボックスを設置し、不満や苦情をうけつけている。又、長く入居されている家族は、不満や苦情は直接管理者に話して下さる事が多く、その際には十分時間を設けて、納得のいかれるまで対応させて頂いている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1度、施設運営会議やミーティングを行い職員も参加している。その際に運営に関する意見や提案を議題としてあげ、職員みんなで話し合う機会を設け、運営に反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化についての対応は基本的に管理者又は、運営者の看護師が行っている。できるだけ職員が基本的な勤務時間で働けるよう調整に努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者及び職員の異動に関しては行わない様に努力しているが、職員のやむを得ない事情等による離職で異動を行った際には、入居者にダメージのないよう配慮している。</p>		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用に関しては、性別・年齢等は問題視していない。本人の働く意欲や必要な人材であるかを基準としている。又、職員が能力を伸ばし發揮できるように取り組んでいる。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>嘉飯桂地区・飯塚市主催などの人権研修には、必ず参加している。又、施設内において伝達講習を開き、職員全員に申し送りを実施している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護職としての質の向上を図る為、職員の能力に応じ研修を受ける機会を設けている。又、スキルアップを図る為、経験年数に応じ積極的に資格取得を支援している。実際に介護支援専門員合格や介護福祉士合格者がいる。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護相談員を通じ、地域の同業者との交流があり、施設見学や相談できる関係にある。同業者間で更なる関係づくりを構築し、サービスの質を向上させる取り組みを行っている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者や管理者から職員への気遣いの声かけなどがあり、野球観戦チケットの配布や定期的な親睦会や交流会などを行っている。</p>		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修会の参加に伴い、職員が希望する研修休などを配慮している。職員が向上心を持って積極的に支援している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一般的に本人からの相談より家族からの相談の方が圧倒的に多い。何か不安な事があればゆっくり、場所を変えて話を聞く機会を設け、本人の相談を受け止めるよう心がけている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた際に家族困っている事や不安に思っていること、求めていること等、よく聴く時間を設けている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に話を十分に聞き、「その時」にまず必要な支援は何かを管理者・介護支援専門員、看護師、介護職員を含め話し合っ対応している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急に入居を求められることが多いが、まず利用者本人や家族に見学をしてもらい、施設での一日の生活の流れや施設の理念を十分に説明し理解・納得してもらい安心して入居ができるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や洗濯たみ、茶碗洗いやモップかけ、散歩の際の車イスの手伝いなどお互い支えあう生活を行っている。利用者が一人間として役割をもった生きがいのある生活が送れるよう支援している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	理念の精神に基づいて利用者を家族と支えていく関係を築き、家族からの相談をうけたり、状態報告をする際には、共に決する場面もある。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	病気の為に家族との関係が悪くなって入居される利用者もある。入居されて面会に来れないという状況も少なくない。できるだけ家族との関わりがもて良い関係に修復できるよう、また、そうでない家族はより良い関係がこれからも築いていけるよう支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人の面会や馴染みの理容店など、昔から大切にしている人間関係や場所との関係がとぎれないよう、利用者が希望される場合は外出など家族に連絡をとり希望に添って支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士でのトラブルも少なくないが、できるだけ話し合い職員がお互いのパイプ役になり人間関係がスムーズにいく様支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても継続的な関わりや相談事に対しては、かわりない対応でのぞんでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個人の暮らし方の希望や意向については、家族からの情報に加え、3時のコミュニケーションタイムの時間に職員も同席し、昔の生活状況や趣味など、今やりたい事などを会話の中で把握できるよう取り組んでいる。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個人の暮らし方の希望や意向については、家族からの情報に加え、3時のコミュニケーションタイムの時間に職員も同席し、昔の生活状況や趣味など、今やりたい事などを会話の中で把握できるよう取り組んでいる。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りを密にし、心身の状態や健康状態について把握できるように努めている。又、健康状態については看護師でもある運営者より指示をもらい健康管理を怠らない。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が均等なサービスを提供できるよう努めている。また生活リハビリやレクリエーションなど、いろいろなアイデアを持ち寄り、介護計画を作成できるよう取り組んでいる。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の個別の目標があり、1ヶ月又は3ヶ月の期間を設け本人の健康状態や精神状態にあわせ目標の実施や状況の記録を行っている。達成状況により次のプランに生かせるよう取り組んでいる。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個別の目標があり、1ヶ月又は3ヶ月の期間を設け本人の健康状態や精神状態にあわせ目標の実施や状況の記録を行っている。達成状況により次のプランに生かせるよう取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の中で4ユニットのグループホームがあり、お互いのユニットが合同で行事を行ったり、レクリエーションで交流を行い利用者や職員の連帯感を育てている。年間をとおしてボランティアも参加していただける環境をつくっている。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会に加入しリサイクル活動や敬老会などに参加している。又、民生委員の協力により地域ボランティア(老人会カラオケクラブ)の慰問など、地域との連携を図っている。防火訓練については消防署の指導を受けながら注意すべき事項の確認を行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人が利用するには自費となるサービスもあり、それを家族や利用者が希望される場合は行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	相談しても明確な解答は得られない。そちらで関わって下さいとの返事が多い。連絡や相談は必ず行っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大庭医院の月2回の往診に加え、緊急時には飯塚病院・市立病院などの医療施設との連携があり、本人や家族などの希望に添った支援を第一と考えて取り組んでいる。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医、丸野クリニックとの関係を築き、状態に応じた処方相談ができています。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月1回のミーティングの際、ケア会議の中で利用者の気になる部分について詳しい話し合いを行っている。毎日の申し送りの際にも健康状態についての相談は気軽にできる体制をつくっている。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した時は、早期のお見舞いや面会に行き安心して過ごせるように支援している。又、担当医と状態の経過や早期退院ができるよう連携をはかっている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りの実績はあり、看取りの指針は定めている。対応については研修やミーティングで話し合い、入居者や家族の意向に添った重度化や終末期の支援を行っている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期の利用者については家族への状態報告を密にし、施設でできること、できないことの説明を十分にし、かかりつけ医とともにチームケアとしての支援を行っている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えによる環境の変化のダメージについては、本人や家族及び本人に関わる関係者間で十分な話し合いを行い、新しい住み替え先の職員や家族へ状態報告を行っている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>1人ひとりの個性を尊重し言葉かけや対応に配慮している。記録や個人情報については、事務所の書類棚に管理、保管している。</p>		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	朝・夕の散歩やレクリエーションへの参加、施設内でのお手伝いの希望など、一人ひとりのペースにあわせ支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の暮らしのリズムや体調に配慮しながら日課の午前・午後の散歩など声かけしながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の希望に添って理容・美容は行っている。家族が同行できる入居者は馴染みの美容室にでかけられる。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際の盛り付けや配膳・後片付けなど、1人ひとりの力にあわせ職員と一緒に取り組んでいる。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康面には十分配慮し定期的に「おやつパイキング」など入居者が楽しめるよう支援している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけ排泄はトイレを利用している。入居者の力が継続できるよう2時間おきのトイレ誘導を行い、チェックリスト表を作成して排泄パターンを把握して、気持ちよい排泄ができるよう支援している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員配置の問題で出来ていない。こちらで時間調整を行っている。日付は本人の希望を聞く。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	使い慣れた枕や布団を使用し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者1人ひとりの力を活かし、洗濯干しや洗濯たたみ、茶碗洗いやモップかけなど役割をつくっている。又、施設の隣の畑を借り大根やブロッコリーなど野菜づくりなども行っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、物忘れから何度も盗った、盗られたなどのトラブルが発生し、その都度家族にまで迷惑をかけることが多い。一部の入居者にかぎりお金の所持を支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援については、グループホームでは職員の配置は入居者3人について1人でされているため、全員の希望に添って戸外にでかけるなど不可能に近いと思われる。出かけるときはグループで出かけるや全員で出かけるなどしている。1人で出かける際は家族にお願いしている。しかし、徘徊等でどうしても1人で出かけたかったり自分の家族に会いたい等、そ		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	車を利用した遠方への外出は他の利用者全員で出かける機械を設けており、昼食を外食にしたり楽しい一日になるよう支援している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りについては自由である。本人が希望すればいつでもできるよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、友人等の方たちの訪問は自由に行っている。お部屋にて過ごされる時は暖房や冷房など'の配慮をして居心地良く過ごせる工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者をはじめ全ての職員は「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は理解しており、身体拘束はしないケアを行っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に鍵をかけることはない。暖かくなれば玄関は開放しており、いつでも地域の方や来客者がこられる様にしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は本人のプライバシーには配慮しているが、玄関に鍵をかけていないので、外へ黙って出られたりすることも時折あり、危険を伴うので所在については常に気をつけている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人のレベルに応じて必要な物品の保管、管理を行っている。又、刃物類については夜間は一定の場所に保管するようにしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止については、職員の意識の中に常にあるが、夜間の居室内で'の転倒などは必ず起こる。その度に入居者の状態を把握し、居室巡回を増やしたりしながら対応している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生時には、応急手当や初期対応の訓練を定期的に消防署等の研修に参加し行っている。又、看護師でもある運営者より入居者の状態悪化の際には細かい指示がなされる。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会の公民館長や民生委員に働きかけ、避難の際の地域の方々の協力を働きかけ、防災訓練についても一緒に参加してもらうようお願いしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクの説明については、入居の際に十分に説明をし理解していただいている。抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策の話し合いは朝の申し送りの際に話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変の発見をした際は、速やかに看護師に報告し、職員間でも情報を共有している。又、看護師より主治医に連絡、指示を受け対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目薬を使用する際には、薬の目的や副作用を処方箋を確認し、支援と症状が改善するよう変化の確認に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防で体を動かす体操や散歩などを取り入れ工夫している。又、水分補給にも気をつけ、野菜などの食材にも工夫している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは毎食後行っており、1人ひとりの口腔状態が清潔に保てるよう支援している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養のバランスについては別のグループホームの職員に栄養士がおり、一日を通じて確保できるよう支援している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり、実行している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	運営者の自宅は農業をしており、米や野菜は新鮮な物が使用されている。又、調理用具等の衛生管理についてもかかさない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者の家族や近隣の人達が親しみやすく、安心して出入りできるようスロープを設けたり、花を飾るなどの工夫をしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は高い天井で開放感がある。キッチン是对面式で入居者と会話などをしながら使用できるよう工夫している。ホール、廊下は廻遊式で一周できるようになっている。壁には行事の時の写真や入居者の作品などをかざり、照明は間接照明を採用し目に優しい工夫をしている。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、3人掛けのソファや2人掛けのソファを配置しており、仲の良い入居者が座って話しをしたり、編み物などを趣味とする方がそこで編み物をしたりと思いの空間となっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の自室入り口には、職員からの感謝状などが掛けられ、自室の中には家族との写真や個々の使い慣れたものをおいて居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になるにおいや空気のだよみがないよう24時間換気を使用している。又、朝・夕の散歩時には換気を行い、インフルエンザなどの感染予防にも努めている。温度調節は外気温と大差がないよう配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、廊下や自室入り口には手すりが設置されており、できるだけ自分の足で歩いて頂けるよう工夫している。又、トイレ内部にも手すりが設置され自立した生活がおくれるようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	比較的にわかる力を活かし生活していると思う。日常が規則正しい生活が出来、入居者とのけんかや徘徊等が少ない。ADL対しても認知症にしても自立の暮らしを整え努力している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りには花を飾り入居者が散歩の時などに楽しめるようにしている。ベランダには4月頃よりこいのぼりを建てるなど、その季節に応じた楽しみを工夫している。		

グループホーム ほなみ

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム ほなみ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型サービスの意味を理解し、地域の方たちとの交流や親睦ができるよう施設側としても、地域行事への参加などを含め積極的に活動を行っている。又、事業所や入居者も地域の一員として自分達にできることを検討し、子供110番の家などの申請検討や地域の散歩コースの清掃活動などを定期的に行っている。看護師である運営者も地域貢献として看護師である知識を活かした健康相談や認知症についての講和などの申し入れを地域に行い、地域におけるグループホームとしての役割についても活動中である。